

平成 28 年度 小平市 地域型地域ケア会議 実績報告

	会議種別 担当包括	実施月	検討内容	参加機関	開催結果
1	□個別課題 ■地域課題 けやきの郷	5 月	①認知症になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らすために地域で何ができるのか。 ②地域の現状と今後の取組みについて、地域の方々とで認知症の方を支援する体制作り等の構築を目指し課題を検討する。	民生委員児童委員、自治会長、けやきの郷	・新しい自治会長や包括職員等で顔合わせと地域の情報共有ができた。 ・民生委員児童委員と協働し、認知症高齢者をはじめ独居・高齢者のみ世帯等の支援を実施していくことを確認した。 ・自治会同士の情報交換ができた。
2	□個別課題 ■地域課題 多摩済生ケアセンター	5 月	現在の小平駅前相談所利用者の方から多く聞かれる、開所継続の声をどう形にしていくかと、居場所としてのあり方についての課題を検討する。	自治会長、商店会、駅前相談所ボランティア、民生委員児童委員、見守りボランティア、高齢者支援課、市民協働・男女参画推進課、多摩済生ケアセンター、中央センター	・運営について協議する場を立ち上げ、居場所としての方針や名称変更や費用負担等についての検討の必要性を確認できた。 ・相談所としての機能を果たすため、広報の継続、周知の方法についての改善の必要性が確認できた。
3	□個別課題 ■地域課題 小川ホーム けやきの郷	6 月	①高齢者が安心して生活できる地域づくりについて。 ②福祉のサービス事業所だけでなく地域の民間企業の方からも意見をもらい、地域の現状を把握し課題を明らかにする。	高齢者支援課、小川公民館、津田公民館、上宿公民館、民生委員児童委員、東京都住宅供給公社、タクシー会社、建設会社、緑成会病院、小川ホーム、けやきの郷、中央センター	・地域住民、地域の民間企業、専門職、行政間の顔の見える関係が構築できた。 ・地域の課題発見と、民生委員児童委員や地域包括支援センターの情報が広まり、地域の見守りや気づきの声が寄せられるようになったことを共有し、気づきの声の重要性を確認できた。 ・地域をつなぐ機関として、地域包括支援センターの役割の重要性を確認できた。

4	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 けやきの郷	7月	地域の現状と課題について地域の方々と地域包括支援センターとの意見交換を通し、地域で高齢者の方を包括的に支援する体制等の構築を目指し課題を検討する。（一小北地区、栄町2丁目地区、栄町3丁目地区）	民生委員児童委員、自治会長、けやきの郷	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者間で地域の情報共有と、各種窓口が遠いなどの課題の把握ができた。 ・個別に対応が必要なケースについても情報共有ができ、今後の支援の足がかりにできた。 ・今後も、関係者の協働により、地域の高齢者を支援していくことを確認できた。
5	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 中央センター	8月	認知症高齢者が地域のなかで安心して暮らし続けるためには、どのようなつながり・関係性が構築されればよいのかを考え、現在の地域の中にどのような課題があるのか、そして何が出来るのかを関係者とともに考える。	民生委員児童委員、見守りボランティア、スーパー、コンビニ、高齢者支援課、中央センター	<ul style="list-style-type: none"> ・外出した際に立ち寄る居場所が少ないことは課題であり、その必要性が確認された。 ・認知症への理解を深めていくことの周知の必要性が確認できた。 ・閉じこもりになることなく、気軽に外出ができる居場所の創設が必要であると確認できた。
6	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 けやきの郷	9月	地域の現状と課題について地域の方々と地域包括支援センターとの意見交換を通し、地域で高齢者の方を包括的に支援する体制等の構築を目指し課題を検討する。（十二小地区）	民生委員児童委員、自治会長、けやきの郷	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者間で地域の情報共有と、地域関係の希薄化などの課題の把握ができた。 ・コミュニティカフェ等の情報を共有することができた。 ・今後も、関係者の協働により、地域の高齢者を支援していくことを確認できた。

7	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 小平健成苑	11 月	<p>昨年度「住み慣れた地域で暮らし続けるための見守りは」をテーマに開催した地域ケア会議において「地域で集える場が少ない。近所付き合いも希薄になり、集える場があれば見守りや情報交換もできるのではないか」との共通した意見が出されたことを受け、そこで今回は「居場所作り」をテーマに、現在サロンを運営している2団体を招き、活動内容を何うとともに居場所作りに興味のある住民や関係機関の意見交換を行う。</p>	居場所発起人、民生委員児童委員、見守りボランティア、自治会長、商店会、花小金井南公民館、通所介護事業所、有料老人ホーム、高齢者支援課、社会福祉協議会、中央センター、多摩済生ケアセンター、小平健成苑	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンの実践者の話を聞き、参加者が自らの地域や立場でできることを考える機会となった。 ・居場所作りに関心のある住民や団体の顔合わせの機会となった。 ・地域の実状に合わせ、集える場所ややり方は多様でよいという共通認識を持つことができた。 ・居場所作りには地域包括支援センターや公民館、社協等公的機関の関わりも重要であることが確認された。 ・居場所作りについて地域住民や関係機関が意見交換できる場を継続していくことが有効であることが確認できた。
8	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 けやきの郷 小川ホーム	11 月	<p>高齢者が安心して生活できる地域づくりについて。</p> <p>①地域で人と人が支え合っていく為の顔の見える関係作りを行う。</p> <p>②小平市内で高齢者が狙われているオレオレ詐欺や消費者被害の現状を把握し、高齢者が被害にあわない、あわせないために地域でできることを関係者で話し合う。</p>	民生委員児童委員、自治会長、見守りボランティア、シルバーピアワーデン、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、小平警察署、市民相談課、高齢者支援課、中央センター、小川ホーム、けやきの郷	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、警察、専門職、行政間の顔の見える関係が構築できた。 ・関係者の気付きによって被害を未然に防げることもあることが確認できた。 ・地域で安心して高齢者が生活できるために情報共有の大切さの確認できた。

9	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 けやきの郷	11 月	<p>住み慣れた町で自分らしく暮らすために、認知症になっても住み慣れた地域での生活を継続していくために地域で何ができるのか。</p> <p>①地域の方々と地域包括支援センターとの意見交換を ②地域で認知症の方を包括的に支援する体制づくり等の構築</p>	民生委員児童委員、自治会長、けやきの郷	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題発見と、民生委員児童委員や地域包括支援センターの情報が広まり、地域の見守りや気付きの声が挙がってくるようになってきている現状が確認できた。 ・地域で安心して高齢者が生活できる為の、情報共有ができた。 ・地域をつなぐ為に地域包括支援センターの役割について再認識できた。 ・今後も、民生委員児童委員・地域包括支援センターが地域と協働しながら、認知症高齢者をはじめとする独居・高齢者のみ世帯などを支援していくことが確認できた。
10	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 けやきの郷	1 月	<p>住み慣れた町で自分らしく暮らすために、認知症になっても住み慣れた地域での生活を継続していくために地域で何ができるのか。</p> <p>地域の現状と今後の取り組みについて、地域の方々と包括との意見交換を通し、地域で認知症の方を包括的に支援する体制づくり等の構築を目指し、開催する。</p>	民生委員児童委員、自治会長、けやきの郷	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムを進めるにあたり、地域包括支援センターと民生委員でのさらなる協働の必要性が確認できた。 ・支え合い、見守りの仕組みづくり、集いの場の開設など地域の実情に合わせた柔軟なサービスの必要性が確認された。

11	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 中央センター	1月	認知症の方が地域で暮らしていくための見守りや環境について ①認知症高齢者が地域のなかで安心して暮らし続けるためには、どのようなつながり・関係性が構築されれば安心した生活が送れるのか ②現在の地域の中にどのような課題があるのか ③課題に対して、関係者にできることは何か	民生委員児童委員、見守りボランティア、自治会長、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、高齢者支援課、中央センター	・何か困りごと等があれば、地域包括支援センターへ相談してもらえるよう周知ができた。 ・地域包括支援センターの啓発を、積極的に行っていく必要性が確認された。 ・高齢者や認知症の方が地域で生活を送る事が当たり前であることが認識された。 ・地元の企業に、高齢者や認知症の方が地域で生活を送る事が当たり前であることを理解してもらい、地域での見守りを強化が必要であることが確認された。 ・認知症について正しく理解してもらうために、認知症サポーター養成講座の開催などを行い、認知症について周知していくことの重要性が認識された。 ・地域の課題については現役世代にも参加してもらい、地域の課題や、解決策について考えいくことの必要性が確認された。
----	---	----	--	---	---

・開催回数 11回（多圏域による合同開催 2回、基幹型参加会議 4回）

個別型地域ケア会議 実績報告

・開催回数 26回（基幹型参加会議 16回）